



1. (左)  
 鉱化作用中心部の本山鉱体遠景、中央の岩峰は、金瓜石鉱床の名の由来した珪化岩体。  
 2. (下)  
 南薩型金鉱床の特徴を示す溶脱珪化岩。

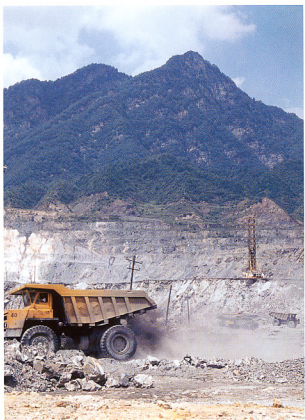
## 台湾、金瓜石鉱床

金瓜石鉱床は、台湾北東角に位置し、第三紀層およびそれを貫くデイサイト(1.4~1.1Ma)中に胚胎する金・銅鉱床(鉱化作用1.0Ma)で、金92トン、銀183トン、銅119,100トンを生産している。鉱化作用は、数個のデイサイト貫入岩(直径~1,000m)の分布域を中心に扇状に発達する裂か系に規制され、3×4km<sup>2</sup>の広がりを持つが、その特徴は、金の鉱化作用が、大規模な溶脱珪化帯の中に硫砒銅鉱を伴って生じていることで、規模の大小の違いはあるが、わが国のいわゆる南薩型金鉱床(High-sulfidation型金鉱床)に類似している。全体的傾向として、鉱化作用中心部で銅に富み、周辺部で相対的に金に富む。また、第三紀層中では、層理面に規制された鉱化作用や、炭層中での金の富化がみられる。

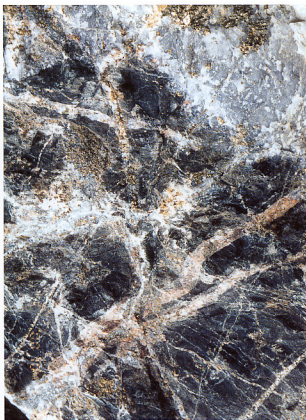
(地殻化学部 松久幸敏)



3. 珪化岩(左)周縁部は、狭い(~1m)粘土化変質ハロー(中央、褐色帯)を経て急激に母岩(右)に移行する。



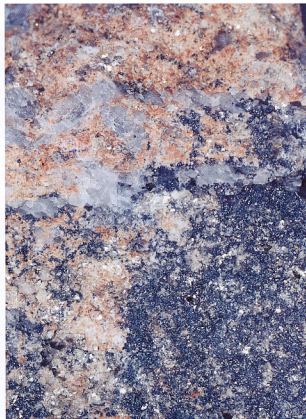
9. 金椎城露天坑における積み出し風景.



10. 角閃岩中の網状脈, 黄色の黄鉄鉱に富む.



11. 花崗岩中の網状鉱染鉛石, コインの直径は15mm.



12. 同接写, 淡褐色はカリ長石, 淡灰色は石英, 暗色部は輝水鉛鉱, 黄鉄鉱, 雲母. 天地10.6cm,